

2年連続で秋にウリハムシ成虫が月下美人に集合・食害し越冬に成功した

竹田真木生

基本的にはウリ科 Cucurbitaceae を食し、そのためウリ科の重要害虫となっているウリハムシ Cucurbit leaf beetle, *Aulacophora femoralis* 成虫が 2018 および 2019 両年、兵庫県佐用郡佐用町上石井の旧石井保育園跡（現昆虫資源研究所 / クリケット・ファーム）の月下美人で越冬したので報告する。

ウリハムシは時々白菜やほうれん草も食害することはあるが、メキシコの熱帯雨林に起源を持つサボテン科クジャクサボテン属の常緑の多肉植物である月下美人 *Epiphyllum oxypetalum*, (英名: Dutchmans pipe cactus, A Queen of the Night) に集合し越冬するという報告は今までにない。月下美人は越冬能力が低く、冬季の野外気温に耐えられないと考えられるが、12月になって植物を室内に移した後もハムシは葉に滞在し細々と摂食を続け、春になって植物を野外に移した後、産卵に飛び立った。同じように、室内と室外を移動して管理されたモンステラ等の観葉植物には加害が見られなかったことから、ウリハムシは月下美人に誘引され、サボテンは餌植物として利用されたのだと考えられる。ウリハムシは成虫越冬するとみなされているが、室内に運ばれた月下美人には著しい食痕が残された。幼虫は夏の間、根を食害するが、冬季にはウリ科植物は根も存在しないから絶食を続けるのであろう。飛来の時期であるが、今年は10月末日現在でまだ飛来はない。



図1 月下美人に集合したウリハムシ。



図2 月下美人の葉に残された食痕。

(Makio TAKEDA ムシの恵み社, ピノキオ幼稚園 [熊谷市], 早稲田大学)

ウスバカマキリの京都府からの初記録

島田直人

ウスバカマキリ *Mantis religiosa* (Linnaeus, 1758) は全北区に広く分布している (Ghahari & Nasser, 2014). また, J.H. ファーブルが本種を昆虫記に登場させていることでも知られている。日本において, 本種は本州から南西諸島にかけて分布している。しかし, 京都府からはこれまで記録がなく (中峰, 2017), 京都府のレッドリストでは本種を要注目種に指定している (京都府, 2015).

2020年9月27日, 筆者は京都府南部地域の草地でウスバカマキリのメスを1個体発見した (図1)。基節の黒色紋から, 本種と同定した。日本における本種の生息地は河川敷等の草原とされているが, 生息地は限られている (日本直翅類学会, 2016)。今回の調査では, 1個体のみを観察であり, 周辺において他個体を発見できなかった。この地域において, 本種は低密度で生息している可能性が高い。近隣の大阪府や兵庫県のレッドリストでは, 本種を環境省の絶滅危惧I類相当としている (兵庫県, 2012; 大阪府, 2014)。従って, 京都府においても本種は絶滅の危機に瀕している可能性があり, 詳細な場所については記さない。

末筆ながら本稿を校正していただいた杉浦真治博士 (神戸大学) にお礼申し上げます。



図1 ウスバカマキリ, 1♀, 全長55.62mm。2020年9月27日。クズの葉上に移動させ撮影。

○参考文献

- 兵庫県, 2012. 兵庫県版レッドリスト2012. 兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課. (<https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/3-7.html>)
- Ghahari, H., Nasser, M.G.E.D., 2014. A contribution to the knowledge of the Mantodea (Insecta) fauna of Iran. *Linzer biologische Beiträge*. 46: 665-673.
- 大阪府, 2014. 大阪府レッドリスト2014. 大阪府環境農林水産部 みどり・都市環境室 みどり推進課. (<http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/21490/00148206/zentai.pdf>)